

営農インフォメーション

水稲



～登熟促進のため、適正な水管理を～

出穂初期から穂揃期にかけての約10日間は、最も水を必要としますので、5～6cm程度の湛水管理を行ってください。それ以降は2～3cmの浅水で、間断灌水を行います。完全落水は、登熟歩合や圃場の排水状態などを考慮して、少なくとも出穂後30日位を目安に行います。ただし、カドミウム発生地域に関しては、8月25日まで灌水管理を行ってください。

☆斑点カメムシ類の防除

近年、アカスジカスミカメの発生が増加していて、本年のすくい取り調査においても、**多発傾向**にあります。水田内にイヌホタルイ、シズイ等のカヤツリグサ科雑草やノビエ類が多発すると、アカスジカスミカメの侵入を助長するので、雑草対策を徹底してください。

アカヒゲホソミドリカスミカメ		成虫侵入	産卵	～～幼虫発生～～	
出穂期後日数		0	7～10	21～24	28～34
防除体系	茎葉散布剤 (長期残効性)		○	○	
	湛水散布剤 (粒剤)	○		○	

☆本田防除

分類	使用時期	使用薬剤	使用量/10a	使用回数
○	出穂期10日後頃	スタークル粉剤 DL	3kg	3回以内
○	出穂期10日後頃	ダントツ粉剤 DL	4kg	3回以内
○	出穂期10日後頃	スタークル液剤 10	1000倍 150ℓ	3回以内
○	出穂期10日後頃	ダントツ水溶剤	4000倍 150ℓ	3回以内
○	出穂期7～10日後	スタークル粒剤	3kg	3回以内
○	出穂期7～10日後	ダントツ粒剤	3kg	3回以内
○	1回目散布の14日後頃	キラップ粉剤 DL	3kg	3回以内
○	1回目散布の14日後頃	キラップフロアブル	1000倍 150ℓ	3回以内

※アカスジカスミカメが多発している圃場では、スタークル剤を用いる。
※1回目散布剤との連用を避けるため、追加防除剤はキラップ剤とする。

ねぎ



～「白神ねぎ」品質検査体制について～

今年も継続して部会による品質検査を実施いたします。この品質検査は、生産者の等級を下げるものではなく、全体の品質の底上げを目的としております。

☆品質検査概要

品質検査は、品質の程度により、①指導（イエローカード）と②別精算（レッドカード）の2項目です。また、生産履歴記帳用紙の提出が無い場合は出荷を受付しませんので、ご注意ください。

①指導（イエローカード）

- ねぎ部会出荷規格に準じないもの（程度の軽いもの）
- ・病害痕の付着（さび病・べと病など）
 - ・虫害痕の付着（ネギアザミウマ・ハモグリバエ食害など）
 - ・ボケが多く、軟白長の短いもの（夏ねぎ25cm未満、

秋冬ねぎ30cm未満)

- ・重量不足（箱込みで5.7kg以上必要）
- ・太さ揃い（太もの細ものが混入しているもの）
- ・結束位置の不揃い（極端に結束位置がずれているもの）
- ・汚れ（葉・襟・軟白部の汚れがあるもの、特に泥の拭き残し）
- ・襟部のしまり（老化による襟部のしまりが悪い）
- ・葉の付きすぎ（葉数は3枚を基本に調整し、4枚までとする）
- ・ぬめりが多い（降雨後に多くなるので注意。腐りの原因となります）
- ・調整不足（皮の剥ぎ残し、外葉の葉欠けなど）

注）同じ項目で2回指導されると別精算になります。

②別精算（レッドカード）

- ねぎ部会出荷規格に全く準じないもの（極端に程度の悪いもの）
- ・極端に白根が短い
 - ・極端に病虫害被害痕があるもの（特にネギアザミウマ）
 - ・デベソねぎの混入
 - ・軟腐病が発生している ⇒ 出荷できません

注）別精算となった農家は、次の品質検査まで別精算となります。

